

厚生労働科学研究費

分担研究報告書

災害時等の産業保健体制の構築のための研究

～外部支援モデルの策定～

研究分担者 中森 知毅 労働者健康安全機構 横浜労災病院 救命救急センター

救急災害医療部 部長

研究分担者 三田 直人 労働者健康安全機構 横浜労災病院 救命救急センター

救急災害医療部 副部長

研究代表者 立石清一郎 産業医科大保健センター 准教授

研究要旨

災害時には、保健医療機関の職員は自らが被災者であるにもかかわらず平時以上の業務負担が生じる。持続可能な復興には、速やかに外部支援を求め、効果的な支援を受けることができるようになることが必要である。しかし、我が国ではこれまで、保健医療機関は支援要請をためらう傾向があった。昨年度までの考察で、効果的支援開始が遅れることなく、また受援者側の負担が増えないようにするためには、二段階支援が有効で

はないかという結論（「二段階支援モデル」の提唱）に至った。今年度は、この二段階支援を有効におこなうためには、どのような準備が必要かを考察した。

「二段階支援モデル」の概要。

第一段階は、被災あるいは被災地に近い保健医療機関（この項では両者をまとめて被災地内保健医療機関とする）への、コーディネーター派遣である。要請を待たず、迅速に派遣する。コーディネーターに求められる機能は、現状把握、どのような機能あるいは物資の支援が事業継続のために必要なかを、受援者と共に考えることである。

第二段階は、コーディネーターが必要と考えた業務を実際に行うことができるモジュールの派遣である。このモジュールには、その実務を指揮する人と被災者の代わりに実務そのものを行うことができる人員が必要である。

このような二段階制をとることによって、支援の開始の遅れや支援過多を防ぎ、よりスムーズな地元体制への復興も期待でき、支援者と受援者のよりよい関係性を築くことが期待できる。

二段階支援モデル

第一段階：コーディネーター派遣

被災地からの要請を待たず派遣

- ・現状の把握
- ・支援の必要性を判断

第二段階：人員・資機材等（モジュール）の派遣・送付

- ・モジュールの内容は，コーディネーターが受援者と相談し決定する
- ・モジュールの指揮，整理，実行する人員も派遣

「二段階支援モデル」を有効にするために必要な要素。

二段階支援には，優秀なコーディネーターと，このコーディネーターに対して主体性をもって支援を要請できる受援者の二つが不可欠である。

・コーディネーター：コーディネーターは最初に被災地内に入る。保健医療機関に勤務する人々の肉体的，精神的な負担を理解でき，被災地内外のどの組織と連携すればその負担を減らすことができるのかを理解できる能力が必要である。具体的には，①被災時に同機関が求められている役割，②同機関に必要な支援の内容，③被災地外のどの組織にどのようなモジュールを応援要請するべきか，を理解できる必要がある。すなわち，被災地内保健医療機関の果たすべき役割を従前から充分理解している人がふさわしい。

・受援者に求められる要素：被災前から，その地域の医療保険体制は，どのような様子であったか（地域性）を理解し，これを支援者に伝える事が重要である。これは何

ら難しいことではなく、地域包括ケアの中での各医療施設の立ち位置、あるいはその地域の保健圏域の構造を理解すれば可能であり、これを支援者に如何に積極的に説明し、どのような状態に復興していきたいかを明示することが重要である。

今後に向けて

保健医療機関は、自施設が被災した場合のために、「二段階支援モデル」を考慮した BCP を作成しておくことが望ましい。この BCP の中で、①二段階支援を具体化するために、どの地域の保健医療機関が被災した場合、だれが支援にはいるのか、各保健医療機関は地域間で提携しているべきである。その上で、②平素から互いの地域の保健医療構造をよく理解しておくこと、が最も肝要であることを、認識すべきである。

まとめ

被災地内保健医療機関には多大な負荷がかかる。一見被災していないように見えても、その機関ではたらく職員は、直接あるいは間接的な被災者であり、支援は必要である。これらの保健医療機関を支援する場合には、まずコーディネーターを派遣し、無理や無駄のない二段階支援を行うことが理想であると考え。そのためには、平素から地元の保健医療構造をよく理解し、「二段階支援モデル」を考慮した BCP を作成しておくことが必要である。

